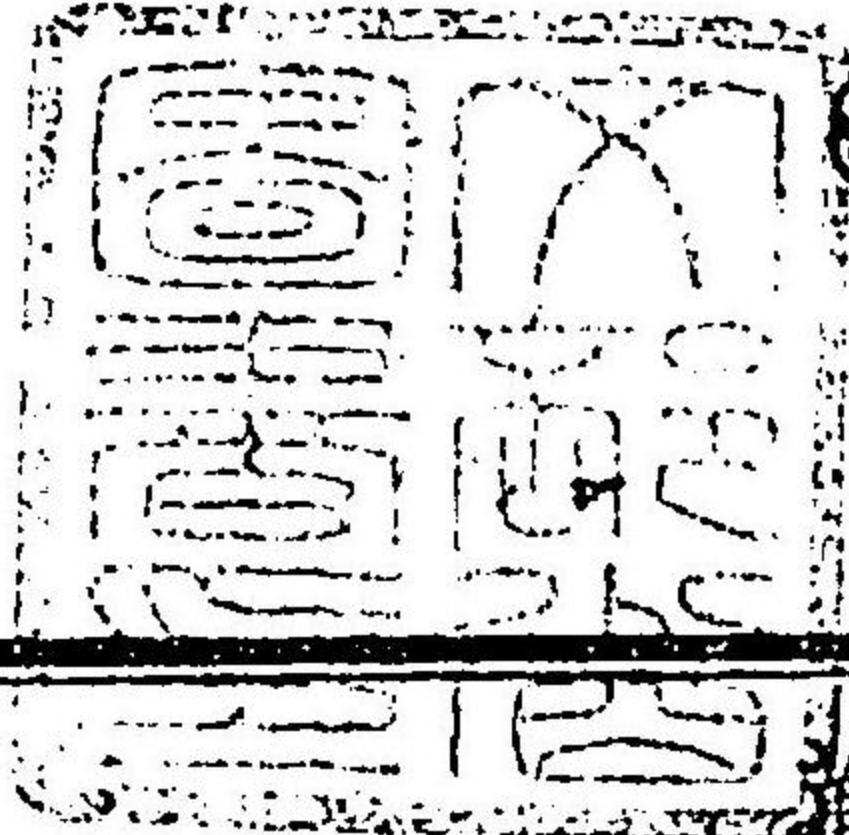
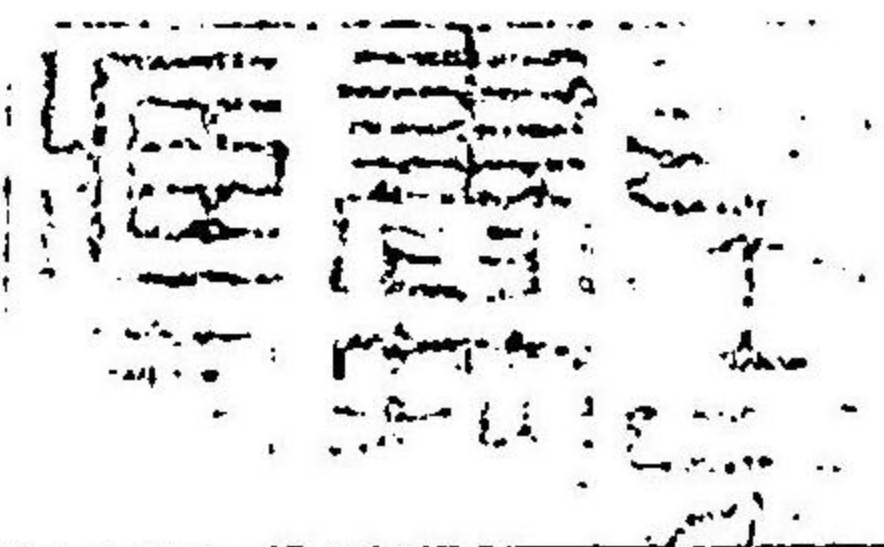


特31

676



信夫吉緒著述

萬國一夜談

明治六年

三月新鐫

瞳園藏櫻

萬國一夜談卷之下

西京 宇田甘冥先生 口授

東京 信夫吉緒 筆記

萬國來歴及ヒ性道教ノ別アル事

日本支那印度ノ來歴ハ入多ク之ヲ知レリ故ニ

之ヲ畧ス

亞細亞土耳其

此地ノ米所波太迷亞ト去所ニ巴比倫ト去國

始テ建國ス蓋シ三千年二百年前ナリ即チ商ノ

末葉周ノ初世ニ當ル印度ノ釋迦氏將ニ出シ
トスル前ナリ此項亞細亞ノ西邊ニテハ巴比
倫アリ同時ニ勿搦齊埃及モ亦建國ス皆地中
海近傍ノ地先ツ開ケルナリサテ此地方天帝
始テ出テ人祖ヲ造ルト云フ其系譜六千餘年
前ノ說傳ハルト雖凡四千二百年前ノ大洪水
ニ因テ人民皆死ス唯諾威ト云者天帝ノ命ヲ
信スルニヨリ其一族纔ニ四十餘人ノミ舟ニ
乘テ免ル、トヲ得タリト云此大洪水ハ堯舜
ノ時ニ當ルトイヘリ其後三千八百年前ニ至

テ諾威一族ノ子孫頗ル繁殖ス其中ニ亞伯拉
罕ト云者天帝ノ命ヲ信ノ洪福ヲ得テ良族ト
ナル是レ猶太教ノ由テ起ル所ナリ夏ノ少康
ノ時ニ當ルトイヘリ其後六百餘年ニシテ巴
比倫始テ建國ス日本建國ニ後ル、ト凡四千
三百餘年ナリ
同地方ノ亞西里國ノ尼奴ト云者尼々微ニ都
シ遠ニ巴比倫ノ地ヲ併ストハ三千零十五年
前ニ在リ此項猶太人即亞伯拉罕ノ子孫迦南
ノ地ヲ畧シ始テ猶太國ヲ建ツ其後巴比倫再

ト起リ盛ニナリテ亞西里ノ地ヲ取リシハ二
 千六百四十八年前ナリ後又猶太國ヲ滅セシ
 ハ二千四百五十九年前ナリ其後數十年ニシ
 比耳西亞ノ為ニ滅ボサル其後猶太國再ヒ立
 ツトヲ得タリ

亞細亞ノ比耳西亞國

二千四百年前ヨリ建國ス居魯士ト去王後ノ
 巴比倫國ヲ滅シ亞細亞ノ西部ト亞非利加ノ
 北部トヲ領ス後二百三十年ニシテ希臘ノ歷
 山王ニ滅セラル

歐羅巴ノ希臘國

其元ハ亞細亞西部ノ人民ノ遷レル者ナリ二
 千七百年前ヨリ始リ數百年ヲ經テ歷山王ニ
 滅ニシテ比耳西亞ヲ滅ス二千百九十年前ナ
 リ歷山王歿シテ後ニ程ナク羅馬ニ滅セラル
 同羅馬國

二千六百二十五年前ヨリ始リ後五六百年ヲ
 經テ希臘ヲ滅シ帝ト稱シ版圖甚ク廣シ漢ノ
 初ニ當レリ日本建國ニ後ル、一五千四百餘
 年ナリ西洋諸國ノ事ハ是ヨリノ後始テ記ス

可シ

羅馬國ハ千八百年前ノ頃ニ至テ又猶太國ヲ滅
ス其百年前ニ耶蘇氏猶太地方ニ出テ猶太教ヲ
一新ス之ヲ耶蘇教トス故ニ羅馬國此教ヲ得テ
盛ニ之ヲ行ヒシガ千四百七十一年前ニ至テ羅
馬國分レテ東西西部トナル西羅馬ハ蓋シ以太
利ニ在リ
數十年ニシテ七ノ千三百九十年前ナリ匈奴ハンヌ
亂ニ因テ七フルナリ東羅馬ハ蓋シ希臘
ニアリ程ナク
回教ノ徒ニ侵サレテ其勢大ニ衰ヘ其後四百十
二年前ニ至テ土耳其國ニ滅セラルル回教ノ祖ハ

千三百年前ニ亞拉比亞ノ麥加ニ生レ千二百六
十年前ヨリ教法ヲ宣シ其後益盛ニシテ其徒兵
カヲ以テ教法ト版圖トヲ併セ弘ムルニヨリ羅
馬ノ耶蘇教モ亦分レテ東西二派トナル東ハ希
臘教西
ハ八百二十一年前ノ事ナリ後四百九年ニ
東羅馬亡ク土耳其國ハ回教ノ支旗ニシテ能ク
東羅馬ヲ滅シテ悉ク之ヲ回教トス
西羅馬ノ亡フル前千五百年ニ當テ匈奴支
那ノ為ニ破ラレ漢ハ武帝ノ時強テ匈奴ヲ破ル
匈奴速ク遁逃ストイヒシ時ノ
ナリ黒海ノ北邊ヨリ歐羅巴ニ入りゴット特ノ民ヲ

一 史記 卷之十

驅リテ日耳曼地方ヲ動亂シ更ニ以太利佛蘭西
西班牙地方ニ侵入セリ西羅馬ハ全ク此亂ニ亡
ノ其項日耳曼ノ野民一ハ英島ニ入テ遂ニ國ヲ
立ツ今テノ英國是ナリ千四百二十二年前ニ當ル
一ハ佛郎哥ト云者遷テ佛蘭西ニ國ヲ立ツ其後
ノ王甲利泰甫ニ至テ太ニ盛ニシテ遂ニ羅馬帝
ノ位ヲ襲ヒ歐羅巴ヲ畧有スルニ至ル此時ニ至
テ羅馬法王ノ威モ亦頗ル盛ナリ此レ即西羅馬
ノ耶蘇教主也
甲利泰甫卒ス路易嗣ク其三子ヲ佛蘭西以太利
日耳曼ニ分封ス其後遂ニ現今ノ形ヲナスナリ

西羅馬國滅マルノ後回教ノ祖馬迦美亞細亞ノ
亞拉比亞ニ起リ甲利泰甫ノ盛ナル時ニ當テ既
ニ亞細亞ノ内地ヨリ印度ニ連リ地中海近傍ヨ
リ亞非利加ノ北岸ト歐羅巴ノ西班牙トニ跨リ
教法版圖共ニ廣大ヲナセリ其嗣王ヲ神裔ト稱
シテ回教ノ法王トナル七百八十年ニ其三子
ヲ分封セシヨリ不和ヲ生シ互ニ戰鬥ヲ成ス是
ニ因テ土耳其比耳西亞韃靼等皆各獨立シ其法
王ハ唯其バクバットノ都ノ近傍ノミヲ保チテ法
王ノ空位ヲ守ル又四百餘年ナリシガ六百餘

年前ニ至テ蒙古ノ太祖鐵木真ニ滅セラル然レ
 氏其教法風俗ハ依然トノ變スル一ナシ只西班
并ハシ
カ其教ノ人心ニ入ルノ深キヲ知ルベシ土耳
 其又其種屬ヨリ起リ亞細亞ノ西部ヲ蝨食シ四
 百十二年前ニ至テ東羅馬ヲ滅シ孔子コノスチチノル但ニ都ス
 今ノ回教國ナリ
 六百餘年前回教ノ仍盛ナル時元ノ太祖鐵木真
 蒙古部ノカラコルムヨリ起リ亞細亞ノ内地ヲ
 平定シ回教法王ヲ滅シ金ヲ滅シテ支那ノ北半
 部ヲ併セ魯西亞ヲ蝨食シ北ハ西伯利亞ヲ併ス

此レ佛教國ナリ然レモ久レカラスレテ衰フ其
 孫元ノ世祖忽必烈クビライカン宋ヲ滅シテ支那ヲ全有シ亞
 細亞ノ大畧ヲ統轄ス版圖ノ大ナル古来未タ曾
 テ有ラス唯日本ヲ侵セシ時ハ其舟師十萬餘人
 神風ニ覆歿セラレ生テ還リシ者纔ニ三人ノミ
 今ヨリ五百九十年前ノ事ナリ其後元支那ヲ有
 スルコト八十餘年ニノ明ノ太祖ニ驅ラレテ蒙古
 部ニ退避ス其西部北部モ皆叛亂シテ定ラス其
 後元ノ太祖ノ裔帖木兒タルラン土耳其斯坦ノ沙驥サルガント民ニ
 起リ亞細亞ノ中央西部ヲ領シ歐羅巴ヲ侵ス又

幾ナラズニテ衰フ帖木兒ノ印度ニ侵入シ其首
 府聶離ヲ陷レシハ四百七十五年前ナリ其後其
 親屬ベールブル王韃靼地方ヨリ起リ印度ニ攻入
 リ再ヒ聶離府ヲ陷レ此地ニ都シテ莫臥爾國ヲ
 立シ其後衰フト雖モ今尚存ス英國ノ力ヲ頼メ
 サラ又八百二十一年前耶蘇教東西ニ派ニ分レ
 後五十年歐羅巴ノ列國合從シテ耶蘇ノ靈地
 猶太地方ノシテ所領ト為シト謀リ回教ノ徒ヲ
 敵トシテ共ニ土耳其地方ヲ代ツ之ヲ十字軍ト

イフ七百七十一年前ヨリ百七十四年ノ間之ニ
 從事ス此頃ハ羅馬法王ノ威益々盛ナリ其事終
 ル頃ハ元ノ鐵木真ガ回教法王ヲ滅スル頃ナリ
 サレモ土耳其ハ強フシテ勝ツト能ハズサテ其
 頃ヨリ航海通商ノ事次第ニ開ケ殊ニ葡萄牙ノ
 如キハ遠洋ニ航スルヲ勤メシガ其後三百七
 十九年前ニ至テ始テ亞米利加洲ヲ發見セリ其
 後六年ニシテ又亞非利加洲ヲ廻リテ印度洋ノ
 通路ヲ開ケリ是ニ因テ五洲ノ人民始テ交通ス
 ルトニナリヌ此ト同時ニ耶蘇教西派再ヒ改革

ノ端ヲ開キ遂ニ分レテ新舊二派トナル其端ハ
三百五十四年前ヨリ起リ戦闘止ムコトナク翌年
ヨリ三十年多クハ日耳曼國內ニテ之ヲ争ヘリ
其後遂ニ新教ノ禁ヲ弛ベ二教而立トナル舊教
ハ即令ノ天主教ニシテ新教ハ即令ノ耶蘇教ナ
リ此争ノ平ギシ頃ヨリ學問技術次第ニ開ケ大
約二百年前ノ頃ヨリ稍教法ノ空理ヲ固守スル
コトナク唯實理ヲ討尋スルコトヲ專ニシ門地ヲ貴
ハズ威權ニ服セス唯條理ニ循テ人倫ヲ正サン
トスル事ニナリヌ然レモ其新舊變革ノ際人心

和セス各國土地瓦解ス其動亂ハ英國ニ發キ始
マリ英ノ屬國タリシ北亞米利加モ亦獨立シテ
合衆國トナリ南亞米利加モ亦之ニ似タルコト
アリ此レ八十八年前ナリ佛國モ亦瓦解シテ國王
ヲ廢スルニ至リ拿破崙第一世此機ニ投シテ佛
國ノ帝位ニ昇リ歐羅巴全洲ヲ震懾セシメ殆シ
ト之ヲ統一セントスルノ勢アリレガ久カラズ
シテ廢黜セラレキ此レ五十年前ノ事ナリ其
時各國盤會シテ一定セシヨリ以テ今日ノ形勢
ヲナスニ至レリ嗚呼歐羅巴列國近キ頃技術學

ヲ發明セシヨリ其威往昔ニ數倍シ既ニ印度ヲ
 領畧シ支那ヲ殘破シ遂ニ日本ニ至ル是レ其寂
 後ノ事ナリ今日本ハ未ク其殘破ヲ被ラズ反テ
 復古ノ業ヲナスニ至ル故ニ知ル日本ハ五大洲
 ノ由テ始ル所ニシテ又其終ヲ成ス所ノ者ナル
 一ヲ一周ノ終ハ即再周ノ始ナルベシ
 夫レ日本教ハ天日神ヲ主祭シテ百神ヲ傍祭ス
 一ニ多ヲ統ル者ナリ其國自ラ足テ教ヲ他邦
 ニ弘ムルヲ要セス故ニ其教至テ貴シトイヘ
 外國ノ人ハ知ルヲ能ハス

支那教ハ日本教ニ類シ上帝ヲ主祭シ百神ヲ傍
 祭ス其邦強テ教ユルヲ賤ハト雖凡亦自然ニ
 行ハル、一ヲ貴フ故ニ其教稍々域外ニ流ル
 印度佛教ハ始多神ヲ祭ラシムル者ハ其方便ナ
 リ後ニ一神ニ歸スル者ハ其主旨ナリ一神ヲ大
 日佛ト稱スル者ハ其實名ナリ又阿彌陀佛ト稱
 シ藥師佛ナト、稱スル等ハ皆其假名ナリ此モ
 亦多ヲ約シテ一ニ歸スルノ意ナリ此教印度ヨ
 リ諸方ニ弘ムトイヘ凡東漸ヲ主意トス故ニ今
 ハ錫蘭島及ヒ後印度蒙古滿洲西比里亞及ヒ西

藏^{チベット}日本ニ蔓延ス故ニ洋人^{キリスト教}佛教ハ亞細亞東半部
 ニ盛ナリト云フ但其本國前印度ハ反テ大ニ衰
 へ^グ婆羅門教トナルト怪ムヘキニ似タリ然レモ
 婆羅門教ハ佛教以前ニアル所ノ俗教ニシテ種
 類頗ル多ク統一スルトナキ者ナリ一旦佛教ニ
 化シテ後反テ佛教高妙ノ理ヲ取テ其教ヲ脩飾
 シ反テ佛教ト爭論スルト多年ナリシガ今ハ遂
 ニ前印度ニ行ハル、ノモ其實ハ即佛教ノ一種
 ト謂テ可ナリ又佛教ノ一種阿彌陀佛ヲ主トス
 ル者支那ノ屬國西藏ニ盛ナリ今ニテハ佛教ノ

主國トモイフベシ佛教ハ其本正シケレモ之ヲ
 弘メント欲スルカ為ニ其方便ヲ過多ニセシニ
 ヲリ之ヲ奉スル者皆其方便ニ拘泥シテ其真實
 ヲ知ルモノ無キニ至ル故ニ名ハ盛ナルニ似テ
 其實ハ衰極セリ
 猶太ノ耶蘇教ノ本ハ即猶太教ナリ此教ハ初猶
 太地方ニ起リシ俗教ナリ然レモ天帝ヲ確信シ
 頗ル善教ナリ後ニ其國亡ヒテ後ハ其人民歐羅
 巴亞米利加ニ散在シテ今ニ此教ヲ奉シテ改メ
 ズ其地ノ政治風俗ニ從フトイヘモ其教法ハ守

テ改メズトナリ耶蘇氏此教ヲ一新シテ後ニ耶
蘇教トナルナリ其後百年計リニシテ羅馬國盛
ニシテ猶太國ヲ亡シ耶蘇教ヲ得テ大ニ之ヲ奉
ス故ニ羅馬教ノ名アリ羅馬ノ教法分レテ東西
ニ派トナル時東派ハ希臘教ト名ク此教今盛ニ
魯西亞ニ行ハレ又土耳其希臘ノ人民此宗ニ屬
スル者多シ西派ハ羅馬教ト名ク即今ノ天主教
ナリ此教今ハ歐羅巴ノ南部ニ盛ニシテ其中央
ニ至テハ相錯雜ス又南亞米利加ノ人民過半此
門派ニ屬ス此教ヨリ別レテ新教出ツ即今ノ耶

蘇教ナリ此教今ハ英國及ヒ日耳曼ニ最盛ナリ
和蘭瑞西等ノ人民モ大畧此門派ニ屬ス又北亞
米利加ニ盛ナリ此他耶蘇教ニシテ宗名ヲ異ニ
スルモノ所々ニ散在ス要スルニ皆一神ヲ祭テ
多神ヲ取ラサル者ナリ
回教ハ土耳其亞拉比亞比耳西亞等一般ニシテ
亞細亞ノ西部ヨリ内地ニ蔓延シ印度諸島ニ行
ハレ又亞非利加ノ東北埃及及ヒ努皮亞等ニ行
ハル此教ハ未タ宗派ノ分ル、ヲ聞カス蓋シ正
論ニ近キカ故カ此モ亦一神ヲ祭テ多神ヲ取ニ

サルナリ
 其他教法種類甚々多シ大抵雜神ヲ祭ル者ハ皆
 俗教ナリ此類印度地方ヨリ支那西比利亞等ニ
 多ク行ハレ亞非利加亞米利加ノ内地澳^{オーストラリア}太利亞
 新^{ニュー}西蘭等ノ諸島ノ野蠻一般ニ之ヲ奉ス其中ニ
 モ高下數等アルヘシ嗚呼多神ヲ祭テ一神ヲ知
 ラサル者ハ固ニ非ナリ然レモ又一神ヲ祭テ多
 神ヲ取ラサル者モ亦未タ是ナラス其唯一神ヲ
 主祭シテ多神ヲ傍祭スル者ハ至極ノ教ト謂ッ
 ヘシ其理ノ當否ハ辨ヲ待タスレテ知ルヘシ

夫レ日本ハ天開ノ邦ナリ故ニ性ヲ貴フ道モ教
 モ自ラ其中ニ在リ
 支那ハ地開ノ國ナリ故ニ道ヲ貴フ性ハ道ノ本
 トシ教ハ道ノ終トスルナリ
 其他諸國ハ皆人開ノ國ナリ故ニ教ヲ貴フ性ヲ
 盡シ道ヲ行フヲ皆教ノ中ニ在テ教フルナリ
 是故ニ日本ハ唯性靈ヲ尊奉シテ失ハサル而已
 道ト教トニ至テハ之ナキ者ノ如シ然レモ實ハ
 無キニ非ス但性靈ノ中ニ就テ性道教ヲ含有ス
 ルノミ支那ハ唯道ヲ貴テ聖人ノ道ト稱スレモ

一 夜談 卷之十 廿

性道教ミナ聖道ノ語中ニ在テ之ヲ列序スルナ
 リ其他諸國ハ皆唯教ヲ尊テ其教々々ト稱ス故
 ニ性モ道モ教モ皆其教ノ中ニ就テ之ヲ説諭ス
 ルナリ其諸教ノ中ニ就テ之ヲイハ、佛教ハ教
 中ニシテ性ヲ主トス耶蘇教ハ教中ニシテ道ヲ
 主トス回教ハ教中ニシテ教ヲ主トス是皆自然
 ノ勢ナリ然レモ此レ皆性靈中ヨリ流レ出タル
 者ナリ

夫レ性靈ハ智ナリ而シテ智仁勇ミナ其中ニ在
 リ道ハ仁ナリ而シテ智仁勇ノ事ミナ其中ニ在

リ教ハ勇ヲリ而シテ智仁勇ノ極功ミナ其中ニ
 在リ是故ニ日本ハ智ニシテ智仁勇ミナ其中ニ
 在リ支那ハ仁ニシテ智仁勇ノ事ミナ其中ニ在
 リ其他諸國ハミナ皆勇ニシテ智仁勇ノ極功ニ
 ナ其中ニ在リ其諸教ノ中ニ就テ之ヲイハ、佛
 教ハ勇中ニシテ智ヲ主トス故ニ悟ヲ主トシテ
 萬事ミナ智ヲ以テ勝ツ耶蘇教ハ勇中ニシテ仁
 ヲ主トス故ニ救ヲ主トシテ萬事ミナ仁ヲ以
 テ勝ツ回教ハ勇中ニシテ勇ヲ主トス故ニ戰ヲ
 主トシテ萬事ミナ勇ヲ以テ勝ツ是皆自然ノ勢

ナリ然レモ是レ皆智中ヨリ流レ出タルモノナ
 リ
 田教既ニ其勇中ノ勇ヲ以テ力戦シテ其教法ヲ
 弘メ併セテ其版圖ヲ廣メシヨリノ後元ノ鐵木
 真ノカラコルムニ起リ帖木兒ノ沙暎良ニ起リ
 ベルフルノ韃靼地方ニ起リ此ヨリ以前ニ數フ
 レハ甲利泰甫、羅馬帝、登山王アリ此レヨリ以後
 ニ數フレハ愷撒拿、破崙ノ類アリ此レ皆所謂英
 傑ノ武烈ナル者ナリ此レ即チ仁勇ノ間ヨリ出
 タル武德カ其レ或ハ別ニ一種ノ武勇カ乃所謂

北方ノ強ナル者ニシテ神聖ノ所謂南方ノ強ナ
 ル者ニ非ルニ似タリ然レモ是レ之ヲ要スルニ亦勇
 ノ類ナリ近時技術學ノ起ルヤ五種神聖ノ文教
 ヲ空理ナリトシテ之ニ拘ラス唯英傑ノ武烈ヲ
 羨慕シ唯其技術ヲ以テ天下ニ横行セントス是
 モ亦武烈ノ餘流ナルヲ知ルヘシ神聖智仁勇ノ
 外ニ於テ藝ヲ取テ以テ勇ノ類トス今ノ技術學
 ハ即是ナリ之ヲ要スルニ唯餘勇ナルノモ然レ
 モ智仁勇ノ外ニ北強ノ勇ト餘勇トアルモ亦皆
 智中ヨリ流レ出タル者ナリ然ハ則日本兼子取

リ併セ有スルモ亦可ナラスヤ
 大抵日本ノ自然教ト支那ノ當然教トハ其始ヨ
 リ神聖出テ之ヲ教ルカ故ニ自然ト當然トヲ尊
 テ強テ之ヲ為ルコトヲ貴ハス其始ヲ貴ヒ其次ヲ
 次トシテ其後ヲ貴ハス印度ノ佛教ト猶太ノ耶
 蘇教ト亞拉比亞ノ回教トハ其始ニ神聖久シク
 出テス風俗陋劣ニシテ既ニ貴フニ足ラス神聖
 其後ニ出テ始テ之ヲ教ルカ故ニ自然ト當然ト
 ヲ貴ハスシテ強テ之ヲ為ルコトヲ貴ヒ其始ヲ貴
 ハス其次ヲ次トモスシテ其後ヲ貴フナリ此レ

其天時既ニ同カラス其教ノ同シカラサルモ亦
 是レヲ以テナリ既ニ自然ト當然トヲ貴ハス故
 ニ唯人カノ脩行ヲ貴ヒ遂ニ天ニ遡ルコトヲ主ト
 スルノモ近時技術學ノ起ルヤ既ニ五教ヲ貴ハ
 スシテ之ヲ空理ナリトシ唯實用ノ事物ヲ討尋
 スルコトヲ貴フ遂ニ古ヲ貴ハムシテ今ヲ貴ヒ今
 モ亦貴フニ足ラストレテ後ヲ貴ヒ名ケテ日新
 學ト云フ此レ別ニ一種ノ學ニ似タレモ實ハ人
 カノ脩行ヲ貴フノ極ニシテ遂ニ天ニ遡ラント
 スル者ナリ此レモ亦彼ノ三教ノ餘流ノモ此モ

亦天ナリ天神人ヲシテ是理ヲ發明セシノ天神
 陰陽レテ故ニ至ラシムルノミ故ニ曰ク自然ア
 ノテ後ニ當然アリ當然アツテ後ニ使然アリ使
 然ヨク自然ヲ奪ハントスルニ至ルモ亦皆自然
 ノ勢ナリ何ントナレハ自然ナルハ固ヨリ自然
 ナリ自然アツテ後ニ當然アルモ亦自然ナリ當
 然アツテ後ニ使然アルモ亦使然ナリ使然ヨク
 自然ヲ奪ハントスルニ至ルモ亦自然ナリ天下
 何事カ自然ニアラサランヤ故ニ又曰ク先ツ自
 然ヲ貴ヒ次ニ當然ヲ貴ヒ又次ニ使然ヲ貴ヒ遂

ニ其自然ヲ奪ハントスルニ至ルヲ貴ヒ合シテ
 以テ自然ヲ貴フノミ自然豈ニ遂ニ奪フベケン
 ヤ父アリテ後ニ子アリ子アリテ後ニ孫及ヒ曾
 孫玄孫芸孫アリ之ヲ要スルニ皆父ノ血統子孫
 ナリ子孫豈ニ其祖ノ尊奉セサルヘケンヤ今ノ
 技術學ナル者ハ實ニ日本神仙自然教ノ芸孫ナ
 ル哉
 蓋シ地球ノ未夕開ケサルヤ唯滄溟アルノミ此
 ニ於テ天神伊弉諾伊弉冊尊始テ降テ先ツ洲國
 ヲ生スト去ヘリ然レモ實ハ則チ然ラス此ニ尊

天ニ在テ既ニ洲國ヲ生シ後ニ始テ降テ洲國ノ
神ヲ生ムナリ次ニ百神ヲ生ム百神乃鳥獸草木
等ノ萬物ヲ造リ百神ノ子孫陵夷シテ遂ニ人ト
ナル此レ乃チ人種ノ始メナリ其後數千萬歳ノ
後又其曾孫瓊々杵尊ヲ降シテ此地ニ主トラシ
ムルナリ故ニ曰ク此世界ノ始メテ開クヤ天神
降テ之カ君師トナツテ以テ之ヲ治教シ百神之
ヲ開クニ非スンハ何ヲ以テカ今日アルヲ得
ンヤ其既ニ開クルニ及テ人道ノ基本既ニ立ツ
天神直ニ之ヲ開クヲ須ヒス是ニ於テ天地ノ

通既ニ絶テ復百神ノ升降ヲ須ヒサルナリ然レ
モ其未ク開ケサルノ地方ニ在テハ又漸ク以テ
之ヲ開カサルベカラス是ニ於テ地ニ在ル所ノ
百神飛行往來シテ以テ其人民萬物ヲ生スルナ
リ素盞鳴尊及ヒ少名彥命大己貴命及ヒ其從神
即是ナリ其地ハ則支那ヲ主トス支那ヨリシテ
又其他ニ及フカ故ニ支那歷聖及釋迦耶蘇馬迦
美等ハ皆日本貴神ノ再生ナルヲ知ルナリ是故
ニ支那聖人稱スル所ノ上帝トハ即天御中主神
ニシテ其稱スル所ノ太陽トハ即天照大神ナリ

之ヲ合シテ天帝ト云ナリ印度佛教ニ稱スル所ノ法身佛即理身モ即天御中主神ニシテ其稱スル所ノ報身佛即智身モ即天照大神ナリ之ヲ合シテ理智法身佛ト云ナリ唯猶大耶蘇教及ヒ亞拉比亞回教ニ稱スル所ノ上帝ハ稍之ト異ナリ其論說ヲ聞ケハ天御中主神ニ似テ其實ハ即素戔嗚尊ナリ然レモ是モ亦天照大神ノ弟ナリ其相去ル一實ニ遠カラス之ヲ要スルニ皆天神ノ道教ナリ

昔者天神伊弉諾伊弉册二尊ノ諸神ヲ生スルヤ

或ハ天上ニ於テシ或ハ此地ニ於テス其中ニ就テ最貴ト者三大貴神ヲ得タリ第一ヲ天照大神ト云フ以テ日神トス蓋シ智元ノ大神ナリ第二ヲ月夜見尊ト云フ以テ月神トス蓋シ仁元ノ大神ナリ第三ヲ素盞雄尊ト云フ以テ北斗神トス蓋シ勇元ノ大神ナリ既ニシテ天照大神其孫瓊々杵尊ヲ降シテ此地ノ主神トシ日向ノ高千穗ノ嶽ニ在ス即日本天皇ノ大祖ナリ是故ニ日本ハ主トシテ天照大神智元ノ恩頼ヲ得テ以テ智邦トナリシナリ然レモ其君タル者常ニ天照大

神ノ智元ニ準シ其相タル者ハ常ニ月夜見尊ノ
仁元ニ準シ其將タル者ハ常ニ素盞雄尊ノ勇元
ニ準シ其他諸臣ハ皆常ニ其他諸神ノ種々ノ諸
元ニ準シ天降以來自然ニシテ易ラズ之ヲ要ス
ルニ唯智元ノ邦ナリ今是ヲ以テ之ヲ推スニ支
那ハ主トシテ月夜見尊仁元ノ恩賴ヲ得テ以テ
仁邦トナリシナリ故ニ其邦性道教ニ於テハ道
ヲ主トシ智仁勇ニ於テハ仁ヲ主トスルナリ其
他諸國ハ主トシテ素盞雄尊勇元ノ恩賴ヲ得テ
以テ勇邦トナリシナリ故ニ其邦性道教ニ於テ

ハ教ヲ主トシ智仁勇ニ於テハ勇ヲ主トスルナ
リ其他諸國中頑固ニシテ化シ難ク未タ開化セ
サル者ハ唯諸神ノ恩賴ヲ得レ氏末タ三大貴神
ノ恩賴ヲ得ザル者ナリ是故ニ日本ハ天神日神
ヲ合シテ天神トシテ唯天照太神ヲ祭ル其智明
ノ恩賴ヲ仰ゲルナリ支那ハ天神月神ヲ合シテ
上帝トシテ昊天ト稱シ或ハ昊天ト稱ス昊天ハ
即闕天即愍天ナリ其仁慈ノ恩賴ヲ仰ゲルナリ
其他諸國ハ天神北斗神ヲ合シテ上帝或ハ天神
或ハ天父ト稱シ或ハ萬軍耶和華ト稱スルノ類

皆其勇烈ノ恩賴ヲ仰ケルナリ印度ノ支那ニ鄰
 リシ亞拉比亞ノ猶太ニ鄰リスル亦類推スベキ
 ノミ嗚呼英傑ノ武烈及ヒ近時技術學ノ猛烈ナ
 ルモ益レ皆素盞雄尊勇元ノ恩賴ヲ得タル者ナ
 リ宜ナリ其勢ノ實ニ當リ難キヤ宜ナリ日本ノ
 之ヲ受用シテ將ニ素盞雄尊ノ恩賴ヲ得ントス
 ルヤ實ニ是レ自然當然ノ理ナリ然レ凡之ヲ要
 スルニ皆天照太神智元ノ恩賴ナリ
 夫レ智ハ其體ナリ仁ハ其用ナリ勇ハ其極ナリ
 日本ハ智ヲ主トス此レ其體ヲ主トスルナリ故

ニ危然トシテ其所ニ居テ其性靈ヲ保全ス故ニ
 居ナカラ天下ノ事物ヲ知ラント欲ス敢テ妄ニ
 他邦ト交ラザル所以ナリ支那ハ仁ヲ主トス此
 レ其用ヲ主トスルナリ故ニ寛裕ニシテ物ト忤
 ハズ其交際ヲ善ス故ニ動テ天下ノ事物ニ應セ
 ント欲ス能ク他邦ト交ル所以ナリ其他諸國ハ
 勇ヲ主トス此レ其極ヲ主トスルナリ故ニ發強
 ニシテ畏レズ廣遠ニ奔走シ勉メテ天下ノ事物
 ヲ究メント欲ス能ク他邦ニ往來シテ止マザル
 所以ナリ此三種ノ者各一長アツテ優劣スベカ

ラサルナリ然リト雖氏今日本既ニ其本教ノ智
性ヲ全フシ又支那聖教ノ仁道ヲ兼有レ傍ラ印
度佛教ノ勇教ヲ兼帶レ更ニ又西洋ノ勇教武烈
等ヲ聞知シ遂ニ其技術學ノ餘勇ヲ兼有スルニ
至ル此レ即所謂集メテ大成スルモノカ是ニ於
テ智性仁道勇教ヲ合シテ一トシ既ニ智ニシテ
敢テ安リニ他邦ト交ラザルノ體ヲ立テ又仁ニ
シテ能ク他邦ト交ルノ用ヲ為シ更ニ又勇ニシ
テ能ク他邦ニ往來シテ止マサルノ極ヲ成セリ
之ヲ要スルニ唯此智性ヨリ流レ出タル者ナリ

既ニ天照太神智元ノ恩賴ヲ得又月夜見尊仁元
ノ恩賴ヲ得更ニ又素盞雄尊勇元ノ恩賴ヲ得テ
日本復古一新セリ實ニ萬國第一ノ邦ナリ

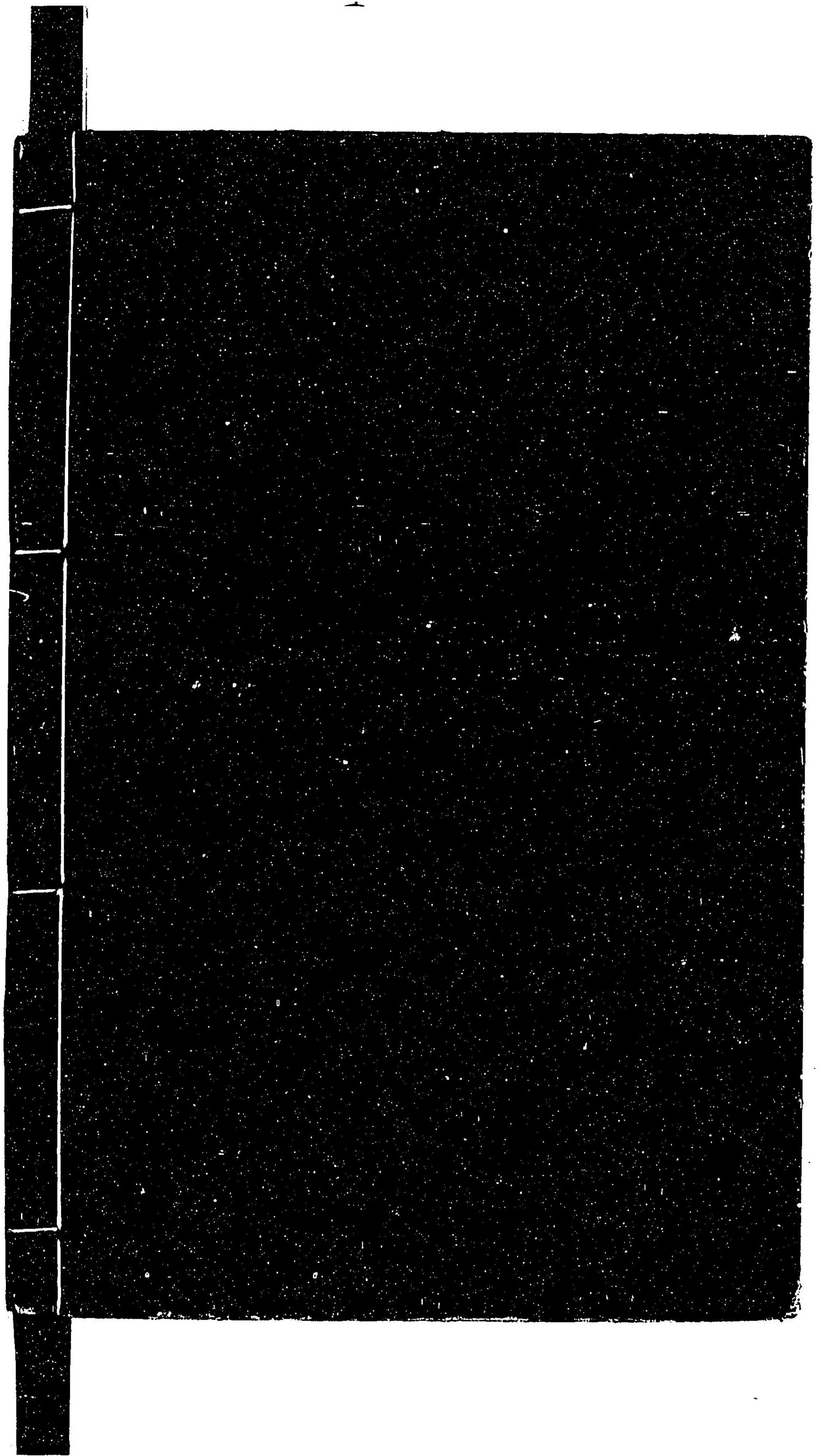
萬國一夜談卷下 大尾

董邨本多澂書

東京

書肆

北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北
田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田
茂兵衛	佐兵衛	新兵衛	吉兵衛	伊八	金右衛門	萬次郎	清七	庄助	兵衛發兌	浅倉久



特	31		
676			
三	八	一	一
册	號	架	函

共
三
本

大
正
十
年